

No.	団 体 名	第 5 回	第 6 回	第 7 回	掲 載 ペー ジ
30	楽しい会		○		63
31	子育て支援クラブ あくあとちぎ			○	65
32	パソコン要約筆記きぶな			○	67
33	真岡点訳サークル			○	69
34	特定非営利活動法人 障がい者福祉推進ネットちえのわ			○	71
35	特定非営利活動法人 全日本車椅子ダンス協会			○	73
36	特定非営利活動法人 スペシャルオリピックス日本・栃木			○	75
37	足利・声のボランティア会			○	77
38	なごみ（和）の会			○	79
39	特定非営利活動法人フードバンクとちぎ			○	81
40	中途失聴・難聴者の会「とちの葉」			○	83
41	特定非営利活動法人 栃木補助犬協会			○	85
42	にっこう認知症・若年性認知症の家族の会			○	87
43	特定非営利活動法人 なんとなくのにな			○	89
44	誰もが笑顔で暮らせるまちづくりを考える会「SevenNursery」 (NPO法人セブナーサリー)			○	91

※当会が第5回支援助成で助成した『親子サポート「未来」』は解散しました。

同じく第5回に支援助成しました「とち術の会」とは、連絡がとれず、中間支援センターも活動状況を把握していないので、原稿依頼ができませんでした。「とち術の会」の現状についてご存知の方は、同友会事務局迄お知らせください。

選考委員会 選考委員一覧 93

表紙デザイン

宇都宮文星女子高等学校 美術デザインコース 3年（平成25年度） 田代 久美

御 挨拶



筆頭代表理事

板 橋 敏 雄

公益社団法人栃木県経済同友会は、昨年創立25周年を迎えました。当会は、全国44の経済同友会の中では37番目に発足した若い同友会ですが、平成24年4月1日から、東京の経済同友会に次いで、全国2番目の公益社団法人として新たな一步を踏み出し、東京以外では最も活発に活動している同友会と自負しております。

当会は、「栃木県の発展と活力ある産業界の醸成に貢献する」という目的のもとに、栃木県経済界のオピニオンリーダーとして、地域経済発展を牽引してまいりました。当会の活動の柱は、委員会事業、社会貢献事業など5つの事業になります。その中でも中心となるのが委員会事業で、10の委員会・研究会がそれぞれのテーマの下、2年サイクルで調査・研究活動を行っています。そして、活動成果は、提言書・報告書として広く公表しています。

委員会事業と並ぶ公益事業として、当会が力を入れているのが、社会貢献事業です。主に社会貢献活動推進委員会が中心となって、地域社会の健全な発展のため、地域住民や各種団体等と協調しながら、経済団体として求められる協力・支援事業を行っています。

その一つである「NPO法人やボランティア団体への支援助成」も、今年度で7年目を迎え、県内で広く認知されております。私は第1回目より選考委員として参加し、それぞれの団体の活動内容の発表を拝聴しておりますが、皆様のプレゼンテーションが年々素晴らしいものとなり、その内容に深く感銘を受けております。

アベノミクス効果で、「失われた20年」と言われる長いトンネルからようやく抜け出そうとしている日本ですが、「格差社会」が顕著となり、非正規雇用の若者や生活困窮者、高齢者、障害者などの社会的弱者にとって生きづらい世となっています。こうした状況の中、悩みや問題を抱えている人々に対し、それぞれの分野で支援活動を行い、地域での信頼関係や絆を創りあげている諸団体の皆様には、心から敬意を表します。

さて、このたび、ここ3年間に当会が支援助成した団体をご紹介する『平成25年度版「社会貢献活動支援助成」ボランティア活動応援Book!』を刊行することになりました。本書に掲載された各団体の活動内容を知っていただき、「共生」について改めて考えていただきたいと思ひます。

我々同友会は、公益社団法人としての使命を自覚し、地域社会の健全な発展に貢献するNPO法人やボランティア団体の皆様と共に歩み、「元気度日本一栃木県」の実現のため、「チャレンジ」してまいります。今後どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2014年1月吉日

刊行にあたって



社会貢献活動推進委員会

委員長 膝 附 政 義

我々社会貢献活動推進委員会は、今年度から2年間の活動テーマとして「人づくり」を掲げ、中高生への出前授業など、より若い世代を対象に、夢にチャレンジすることの大切さなどについて直接語りかけています。経済人として、明日の日本、栃木県、地域を担う若者へエールを送りたいという思いが原点にあります。

このような委員会事業と並ぶ公益事業として、当委員会が同友会の中心となっていてるのが社会貢献事業です。地域に密着した公益法人として、栃木県のために、地域住民や各種団体等と協調しながら、経済団体として求められる協力・支援体制の確立や支援助成事業を行っています。

その中でも、「少子高齢化対策および障害者福祉を推進するNPO法人やボランティア団体への支援助成」は重要な取組であり、お蔭をもちまして今年度で7年目を迎えることができました。第1回～第3回までは、少子化対策を推進するNPO・ボランティア団体を対象にしていましたが、第4回からは募集対象に高齢化対策を推進する団体を、第6回からは障害者福祉を推進する団体を加えました。これまでに延べ127団体へ788万円の支援助成を実施したことになります。

さて、ボランティア（英: volunteer）という語はもともと、「自発性、無償性、利他性に基づく活動に携わる人」を指します。ボランティアに携わる皆様は、「自分がやりたいからやる」という信念をお持ちでしょう。我々経済人も、「企業は社会の公器である(松下幸之助の言葉)」と自覚し、企業と社会の共存共栄を目指すべく頑張っております。そして、本会の助成事業が、企業とボランティア団体、さらには、様々なボランティア団体とボランティアを必要とする皆様の懸け橋になればと願っています。

このたび、第5回～第7回で支援助成させていただいた各団体の活動をより多くの方々に知っていただきたく、『平成25年度版「社会貢献活動支援助成」ボランティア活動応援Book!』を刊行することになりました。本書の制作に御協力くださった団体及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本書を通じて、たとえ小さな活動でも、その活動がより良い地域づくりにつながること、生まれたばかりの若い団体、小さな団体にも支援を受けるチャンスがあることを知っていただきたいと思います。

私は、思いやりの心を身近なところから行動に移す「ボランティアイズム」が何より大切だと考えております。そして、本会の支援助成事業を通じて、「出会いと感動と学び」を得ることができ、感謝しております。

結びに、社会貢献活動を行うすべての皆様の益々の御健勝と御発展を祈念し、刊行にあたっての御挨拶とさせていただきます。

活動発表会などの様子

「地域に学び、地域に返す…地域と大学の支え合い」をモットーに、地域貢献活動に熱心に取り組まれている宇都宮大学にご協力いただき、大学会館を会場に、毎年「社会貢献活動支援助成」の活動内容発表会及び報告会を行っています。

活動内容発表会は、一次書類審査を突破した団体が、所定の時間内で活動目的や活動内容、活動への思い等を発表します。それを選考委員が採点するとともに、会場にいる皆様にも投票していただき、助成団体、副助成団体を決定します。会場内には、発表団体が作成した活動紹介の掲示物を並べ、皆様にご覧いただいております。



挨拶される宇都宮大学学長 進村武男氏



選考委員から質問



第5回（平成23年度）活動内容発表会
いっくら国際文化交流会



第6回（平成24年度）活動内容発表会
紙芝居ねんりん29（ふく）の会



第7回（平成25年度）活動内容発表会
特定非営利活動法人 全日本車椅子ダンス協会



各団体手作りの掲示物資料

活動内容発表会（二次プレゼンテーション審査）の後は、会場をカフェテリアに移し、審査結果発表と認定証贈呈式を行います。どの団体も素晴らしい活動内容であり、毎回、選考委員は助成団体・副助成団体を決定するのに頭を悩ませています。

贈呈式後は、一般参加者も含め、意見交換会を行います。軽食や飲み物をいただきながら、団体同士や同友会会員と情報交換をしております。

プレゼンテーションの場と情報交換の場を設けているというのが、当会の「社会貢献活動支援助成」の特色です。「素晴らしい活動発表に参加でき、勉強になった。」「プレゼンテーションは初めての体験で緊張したが、新鮮な感覚だった。」「大変意義のある事業で感謝を申し上げたい。」「他の団体の活動を知ることができ参考になった。」「我々の活動を知っていただける良い機会となった。」といった喜びの声が寄せられ、当会としても、嬉しく思っております。

3月には、活動対象期間の終了を控え、助成・副助成団体の活動報告会を開催しています。申請した事業に対しての助成金の活用の仕方、今後の活動の青写真などを発表していただきます。報告会では、審査は行わないので、団体の皆様も選考委員の方々もリラックスした中、活動報告が行われます。



認定証贈呈（第7回）



第5回（平成23年度）
贈呈式 助成団体



第6回（平成24年度）
贈呈式 助成団体



第7回（平成25年度）
贈呈式 助成団体